

第七回 堅磐事業検討委員会 議事概要

(1) 日時 平成 27 年 9 月 2 日 (水) 15:00~16:30

(2) 会場 常陸河川国道事務所 G 会議室

(3) 出席者 別紙のとおり

(4) 議事概要

①出席者の確認

- 7 名の委員全員の出席により委員会規約第 3 条第 2 項の規定に基づき委員会の成立を報告。
- 委員の交代（茨城県水産試験場内水面支場長：益子委員が八角委員に交代）を報告。

②第六回堅磐事業検討委員会議事概要について【資料 1】

- 事務局より資料 1 に基づき第六回堅磐事業検討委員会議事概要について説明。
- 審議結果
 - 第六回堅磐事業検討委員会議事概要について了承された。

③堅磐地区河道掘削工事の経過について【資料 2】

- 事務局より資料 2 に基づき堅磐地区河道掘削工事の経過について説明。
- 審議結果
 - 堅磐地区河道掘削工事の経過について了承された。

④モニタリング調査結果について【資料 3】

- 事務局より資料 3 に基づきモニタリング調査結果について説明。
- 審議結果
 - モニタリング調査結果について了承された。
 - 委員からの主な意見、質問等とその回答は以下のとおり。
 - ◆ 質問：昆虫では温暖化の影響が見られるが、サギ類ではそのようなことは無いのか。
 - 回答：日本で 30 年分の手持ちデータからはそのような相関は確認できていない。
 - ◆ 質問：サギ類は年々減っているのか。
 - 回答：常陸河川国道事務所の調査はコロニーに分布する個体を全て計数しているが、筑波大学の調査では「繁殖可能な成鳥」を計数しており、その結果では昨年度と同程度となっている。
 - ◆ 質問：餌場はどこにあるか情報はあるのか。
 - 回答：餌場はどこにあるかはわかっていない。どのような田んぼが餌場として良いのかは研究中である。
 - ◆ 質問：14.8k 付近のねぐらの植生はどのような種類・規模のものか。
 - 回答：堅磐と同じような密度・高さのタケ類である。規模は数百メートルくらいと思われるが、正確には計測していない。

- ◆ 質問：「コロニー」は堅磐を維持すべきか、流域全体で総数が変わらなければ良いのか。
 - 回答：一箇所だけでは無く他にもあった方が良くと思われる。なお、コロニーが移動するときには分散から始まることがあるので、今後の動向を見ておいた方が良い。
 - 意見：堅磐のコロニーは過去に久慈川の下流方面の別な場所から移動してきたものである。高速道路が出来たあと、畑が無くなってからサギ類が増えた。今後は上流に移動する可能性もあるかもしれない。
- ◆ 意見：二次掘削を終えた箇所が「プール」になってサギ類が利用していたのは興味深い。今後、掘削箇所がどのような環境となって変遷していくかはわからないが、このような状態が維持できるといわれる「冬水田んぼ」のようになって渡り鳥などにとって利用できる良い環境になると期待出来る
- ◆ 意見：アユの産卵場面積について、H24 のデータが「0」となっているが、県の調査では少ないながらも産卵があったことを確認している。
- ◆ 意見：早瀬の形成は中州の上流端の位置や形状との関連性があるように思える。
 - 意見：アユに対して問題になりそうな現象が見られれば、そのときにはモニタリングを実施した方が良い。

⑤H27 堅磐地区河道掘削工事等について【資料 4】

- 事務局より資料 4 に基づき H27 堅磐地区河道掘削工事等について説明。
- 審議結果
 - H27 堅磐地区河道掘削工事等について了承された。
 - 委員からの主な意見、質問等とその回答は以下のとおり。
 - ◆ 意見：予定範囲について、治水機能を十分に発揮できるように頑張って掘削していただきたい。なお、下流側に日立市の上水道の取水口があるため、完成後にそちらへの影響が無いかどうかなど、日立市と連絡をとりあって確認して欲しい。
 - 回答：日立市にも情報提供するようにする。
 - ◆ 意見：四堰の改修予定については、漁協へ内容を説明して調整をしておいて欲しい。四堰は久慈川で遡上アユの最初の「入り口」にあたる重要な場所であるため、現状の問題点については改善を検討して欲しい。
 - 回答：漁協には 8 月 26 日に内容を説明してある。漁協には現地の立ち会いもしていただく予定である。
 - ◆ 意見：伐採を予定する右岸の樹林については、サギ類にとっては左岸のコロニーを目指す時の目印として認識されている可能性もある。もしそのように利用しているとすれば、伐採すると影響があるかもしれない。過去の樹林分布状況を確認してみても、コロニーが形成される前から大きな樹林地が分布していたのではなく、最近発達してきたようであればそのような可能性は低いので伐採しても問題無いと思われる。
 - 回答：確認する。

- ▶ 意見：おそらくここは以前から樹林地だったわけではなく、最近発達したものである。分水路掘削に伴いコロニー付近の樹林地の一部を伐採しても影響は無かったので、この場所の規模・樹相を考慮すれば心配は無いと思われる。

⑥今後のモニタリング計画について【資料5】

- 事務局より資料5に基づき今後のモニタリング計画について説明。
- 審議結果
 - 今後のモニタリング計画について了承された。

⑦その他

- 次回の委員会は、来年度も今年度と同様に工事前に予定しているが、詳細な日程については委員の皆様のご都合に合わせて調整させて頂く。

以上

第七回 堅磐事業検討委員会

出欠表

日時 平成27年9月2日(水)

15:00~16:30

会場 常陸河川国道事務所2階会議室G

(13:30~14:30まで現地視察)

(1) 委員

	氏名	所属	出欠
委員	池野 進	日本野鳥の会茨城県 会長	○
	小菅 次男	茨城生物の会 会長	○
	○武若 聡	筑波大学システム情報工学研究科 教授	○
	多田 恒雄	茨城県鳥獣保護管理員、茨城県環境アドバイザー	○
	徳永 幸彦	筑波大学生命環境系生物科学専攻 准教授	○
	八角 直道	茨城県水産試験場内水面支場 支場長	○
	山口 萬壽美	河川水辺の国勢調査(鳥類)アドバイザー	○

敬称略 五十音順、○：委員長 (池野委員は現地視察は欠席)

(2) オブザーバー、事務局

	氏名	所属	出欠
オブザーバー	高杉 則行	久慈川漁業協同組合 代表理事組合長	欠
	関 慎一	那珂市 市民生活部 環境課 係長	○
	田所 隆一	日立市 都市建設部 都市整備課 課長	○
	田所 善四郎	常陸太田市 建設部 建設課 主査	○
事務局	水島 徹治	常陸河川国道事務所 所長	○
	宮崎 和幸	常陸河川国道事務所 副所長	○
	土谷 智行	常陸河川国道事務所 工務第一課長	○
	岩淵 光生	常陸河川国道事務所 調査第一課長	○
	岩井 潤一	常陸河川国道事務所 久慈川下流出張所長	○
	澤野 郁央	常陸河川国道事務所 工務第一課 河川工務第一係長	○
	野村 和也	常陸河川国道事務所 工務第一課 技官	○

敬称略